

平成30年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川 正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：授業評価の回答率が50～70%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。
	理由	最終回の講義時に10分程度時間を取って授業評価アンケートに回答するよう指導している（スマートフォンでの入力も可能なことも伝えている）が、操作が複雑でその場での実施に至っていない。
②	課題	継続：座学講義・実験実習において、課題レポート・予習・復習などの授業外学修時間が「1時間未満」や「全くなかった」の回答が前年同様依然多い。
	理由	自発的な授業外の学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生が多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。
③	課題	継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考ええる。
	理由	②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図ると共に、本年度後期は授業時間内(14回目、15回目)に必ず10分程度時間を取り、回答手順の詳細な説明し、コンピュータラボではなく、講義室において各自のスマートフォンやパソコンで回答するよう学生に指導するとともに、確実に入力したのを確認するようお願いする。なお本課題は、新学習支援システムの導入・利用によってかなり改善が進むと考える。
	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨期に引き続き、グループワークやLTD(Learning Through Discussion)課題を事前に取り組ませること、さらに宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施をお願いすることで、授業外の学修の習慣付けを実現する。
③	本課題については、1月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD(Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用をお願いする。さらに、新学習支援システムの導入・利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修(簡単な演習)のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

「図を用いて基本的な解析例を数多く紹介」、「重要な個所をはっきり伝えた」、「重要なポイントを頻回解説した」、「ケースメソッドの手法により、学生が主体的に考え、発表する、議論することに取り組んだ」、「受講ノートに学生が記載した質問等への回答、コメントを必ず実施した」、「一番理解が遅い人に合わせて講義を進め、全体の理解度を高めた」、「授業の終わりに学びの確認のための小テストを行い、重要ポイントの理解を深めると共に、理解していない点を次回の授業で解説・補足説明した」、「クリッカーを使用して生徒の意見を反映させる新しい手法を取り入れた」、「練習問題について、学生間でディスカッションしながら回答する時間を設けた」など

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

昨期に引き続き、双方向型授業、グループスタディ・ブレインストーミング・ディベートなどのアクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。